

研修目的

病理診断が診療、治療において果たす役割は極めて重要である。臨床各科から依頼を受ける種々の病理診断を経験し、その内容、役割を理解する。また、自ら病理診断を行うことにより各種疾患の病態の理解を深める。

習得できるアウトカム（能力）

1) 必ず習得できるアウトカム（能力）

※習得することで診療科の研修を修了できます。習得できていないと評価を受けた場合は、研修期間が延長となります。

- A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナルリズム）
 - ・医療における病理診断の役割を理解できる。
- B. 資質・能力
 - ・診療に関わる病理診断の記載内容を理解できる。
 - ・カンファレンス、学会で症例提示を行う際、必要に応じて病理組織の説明ができる。
- C. 基本的診療業務
 - ・病理診断依頼書を適切に記載できる。

2) 研修医の意向により習得できるアウトカム（能力）

- A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナルリズム）

病理診断が診療の中でどのような役割を果たしているのかを理解し、報告書を受け取る立場になった際に内容を十分理解できるようになる。
- B. 資質・能力
 - 1) ホルマリン固定、肉眼所見の観察や記載、切り出しなど手術切除臓器、組織標を適切に扱うことができる。
 - 2) 組織診断標本や細胞診断標本の作製過程について述べることができる。
 - 3) 免疫染色の原理、適応、評価について述べることができる。
 - 4) 組織標本による遺伝子解析について述べることができる。
 - 5) 凍結組織標本の作製過程について述べることができる。
 - 6) 術中迅速診断の役割、適応疾患について述べることができる。
 - 7) 主要な疾患の組織診断標本を観察し、その所見を記述することができる。
 - 8) 主要な疾患の細胞診断標本を観察し、その異常細胞所見を理解できる。
 - 9) 病理解剖やCPCの意義について述べることができる。
 - 10) 臨床経過、肉眼的解剖所見、組織学的所見を総合した病理解剖診断を理解できる。
- C. 基本的診療業務
 - ・指導医とともに臨床医の求める組織診断の記載ができる。

具体的な指導方法・フィードバック方法（研修方略）

研修医は指導医とともに手術切除臓器、組織の切り出しを行い肉眼所見の観察や記載を行う。生検組織や手術切除臓器、組織から作製された組織標本を観察し自分で診断書の下書きをした後、指導医とディスカッションをしながら組織診断の確認を行う。術中迅速診断において、研修医は指導医とともに組織の取り扱いや診断を行う。

細胞診断において、細胞検査士、指導医とともに標本の観察を行い、診断の場に立ち会う。
 病理解剖において、研修医は指導医の介助あるいは見学者として解剖に立ち会う。
 病理医の役割を理解した上で、臨床医の立場から病理医との関わりを考える。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	組織診断 切り出し	組織診断	細胞診断
火	組織診断 切り出し	組織診断	細胞診断
水	組織診断 切り出し	組織診断	細胞診断
木	組織診断 切り出し	組織診断	細胞診断
金	組織診断 切り出し	組織診断	細胞診断

術中迅速診断(随時)

病理解剖(随時)

指導責任者および指導医

指導責任者、指導医： 藤島史喜（病理診断科 科長）

指導医： 中村保宏（病理学教室 教授）

学会発表・論文作成に対する指導体制

指導医が発表のための文献検索、スライド作製、プレゼンテーションなどの指導を行う。

指導責任者、指導医：藤島史喜（病理診断科 科長）

指導医：中村保宏（病理学教室 教授）